

てん
がんばっ10ねん JA女性部 “きらり笑顔”

近畿地区 滋賀県JA東びわこ女性部

北川 しげ子

JA東びわこの概況

私のJA東びわこは、『井伊直弼と開国150年祭開催』と『ひこにゃん』で有名な彦根市と愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町の1市4町からなるJAです。ひこにゃんも可愛いですが、東びわこにも『ひこにゃん』に負けない可愛いキャラクターがあり、名前を『いっぴー』と申します。JA東びわこの人々の夢をのせて、日々活躍しています。滋賀県の東北部に広がる湖東平野に位置し、芹川・犬上川・愛知川などが琵琶湖にそそいでいます。その立地を生かして米、麦を主体とする農業生産を展開してきました。京阪神、中京、北陸の各経済圏に隣接し兼業化、都市化が進み、恒常的勤務による安定兼業農家が増加しています。

平成21年3月末では正組合員8389名、准組合員9313名の計17702名の数字からもおわかりのように、正・准組合員数が逆転し、「土地持ち非農家」が増加している現状です。組織の概要は、総代数543名のうち女性総代74名（全体の14%）、経営管理委員31名のうち3名が女性経営管理委員となっています。

女性組織活性化への取り組み

東びわこの女性組織活性化についてお話をさせていただきます。

参考《JA東びわこ 女性部員数の推移》

平成10年と平成14年
（わずか4年間で）
部員数が約半数に！

H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16~18	H19	H20
5200	3883	3953	3000	2650	2300	2700	2600	2593

《第1期》平成14年度 大規模な女性部改革

（本部役員制度廃止・部費の廃止）

仕事を持つ女性が増え役員の負担を重く考えた部員が、女性部役員が引き受けられないから女性部を支部単位で脱退するというケースが多発し、平成10年から14年のわずか4年の間に、部員数が半数に減少するという危機的な状態となっていました。そこで、役員の負担を軽減すべく「本部役員制度廃止・部費の徴収を廃止」という大規模な女性部改革を行いました。その結果、支部単位の脱退がなくなり、一度は解散された支部への再加入への声かけや年齢制限がなく、気の合う仲間が集まれる「家の光小グループ」の加入促進活動により、部員の減少に歯止めがかかり、少しではありますが部員が増加しました。

しかし3年がたち、部員からのパイプ役である本部役員会がないため、支部はもとより、目的別グループの持っている要望を女性部事務局がくみ取りにくくなり、事務局主導の女性部活動となり女性部自身の一体感がなくなっていくという状況になってきました。

《第2期》平成19年度 **女性協議会の設立**

そこでもう一度部員相互の連携、相談機能の充実を図り、私たち女性部の声をJAにつなげるパイプ役となる女性部（連立）協議会の設立を求める動きが高まりました。おりしも女性部結成10周年を記念する平成19年度を迎えるにあたり、平成18年度末までに旧5JA各地区から2名（うち1名を30代～40代のメンバーを選出）、目的別グループの代表者、相談役として女性経営管理委員3名に加わっていただき、計17名で平成19年度から女性協議会が始動し新たな女性部組織体制が誕生しました。

合言葉は 「がんばっ10ねん JA女性部」

女性協議会が最初に取り組んだこと、それは「なぜ女性部が衰退するのか」ということです。女性部自身が女性部の活動を理解していない状況を変えていくことが先決であると考えました。「私たち女性部の活動を地域の方々に広く知ってもらうとともに、この活動が地域の活性化につながり、JA女性部と地域社会の共生を目指していこう」との思いで、3つの10周年記念イベントを企画しました。

第1弾『JAフェスティバルへの参画』

JAのイベントで一番多くの人が集まり、女性部の存在をアピールできる場所『JAフェスティバルへの参画』です。女性部まるかじりクイズ大会、食の祭典として地元産の食材を使った模擬店を連ねた地産地消横丁の出店、リサイクル活動（粉石けん活用法）、アジアとの共生ベトナムコーナーなど、女性協議会、女性部が総力をあげて取り組みました。



空き缶・ペットボトルのキャップ
古切手・使用済カード
→エコ通貨に交換されます。

第2弾『女性部親睦旅行』

女性部部員同士の親睦と女性部の活動を女性部により知ってもらうことを目的として、女性部親睦旅行を行いました。バス4台の添乗員は点呼、挨拶、行程の説明に至るまですべて女性協議会の役員で担当しました。初対面の部員同士でも親密な交流が図れました。

クイズに答えるグループはくじ引きで決まります！

クイズ大当たり！
世代を超えた交流が
できました

女性部まるわかりクイズを出題



第3弾『女性部10周年記念冊子の発刊』

女性協議会設立と女性部の活動を記念冊子にまとめ、女性部内外に発信することを目的に、女性部10周年記念冊子を発刊『がんばっ10ねん JA女性部“キラリ笑顔”』と名づけました。

理事長と女性部長との対談、地道にこれまで女性部活動に尽力されてきた方の特集、平成20年度の女性部総会のエコ宣言により「JA女性部エコ大賞」の受賞者を冊子で発表するなど、女性協議会の中から編集委員会を立ち上げ、すべての企画・取材・原稿執筆・編集を行いました。

この日は →
印刷会社との打合せ



JAとの対話活動の実施

以上のような活動から、JAにおける女性部の認知度も上がり、JA役職員からの女性部活動への理解が浸透してきました。経営管理委員会会長より、女性経営管理委員推薦諮問委員会を女性部に委任され、この6月に女性の代表枠に私たちの仲間3名を送り出すことができました。

また、滋賀県の女性協議会の活動指針にある「JA役員との対話活動」はJAとJA女性部との相互理解の必要性と女性の目標実現にむけて大変重要であると考えています。平成20年度の対話活動では、『女性起業グループの育成』や『高齢者福祉事業としての配食サービス』などの要望と『JAがJA女性部に期待すること』とは何かの質問を投げかけました。

→ J Aからの回答は次のようなものでした。

女性部には、地域の誰でもが J Aを利用できるという認知度を上げてもらい、利用者を顧客から組合員へ、J A運営に参加参画への道を切り拓いてもらいたい。夢を持って取り組んでいる女性に J Aとしても活動を支援していきたいと思う。ただし、協同組合とは何か？ということをもまず皆に知ってもらうことが先決であり、理解をいただいた上で、組織として J Aに参画してもらいたい。女性が J Aを支える、女性が元気であれば J Aも元気になっていけると思うので、これからの活動に期待する。

これからの J A 東びわこ女性部

この期待に答えようと、私たちは平成 21 年・22 年度に以下の取組みをしています。

①『女性部の組合員加入促進に向けて』

女性部活動をより J A に反映させるには、女性総代の力が必要との思いから、女性協議会構成員選出を規約改正し「目的別グループ代表」から「女性総代代表」へ変えました。

②『女性起業講座の開設』

さきほどの役員との対話の要望から、さっそく 4 月より直売所の一部に女性部地産地消お惣菜コーナーを設置していただくことになり、その直売所に出品するグループの育成のため、起業講座を企画しています。

③『知って得する女性講座の定期的な開催』

これは若いメンバーの感覚が、J A に対する想いも依存度も低いということを感じたからです。女性の願いが J A で叶えられることを知らないという状況、それゆえに J A に対する期待も薄いのではないのでしょうか。しかし、現在の食の安全や医療・福祉のことなどを研修で学ぶことにより、女性部員の問題意識の共有化が図れます。女性の関心を J A に向けるためには、定期的な研修により、問題意識を芽生えさせ、組織力でその問題に向かっていくことができ、達成感が結束力につながるのではないかと思います。

最後になりましたが、『J A あっての私たち J A 女性部』です。

今後の女性部発展に向け、地域の J A を舞台として

『変わろう 変えよう J A 女性部』をモットーに

J A 東びわこ女性部はこれからも頑張り、変わり続けます。

